

6

河川名

むらさきがわ

紫川水系

紫川

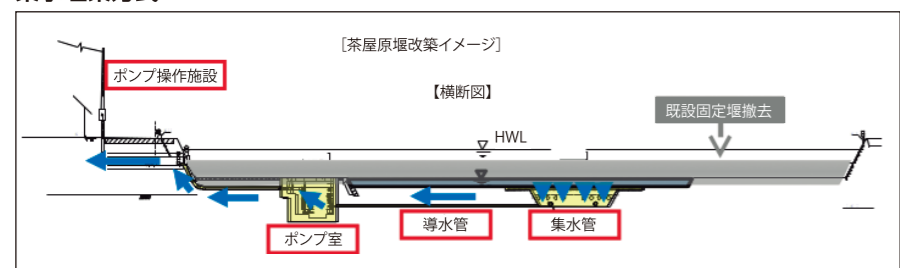
特徴・アピールポイントなど

堰の改築において集水埋渠方式を採用することにより、十分な治水効果が発揮でき、また河床の連続性が確保できるため、魚道を設置することなく魚類や底生生物の移動が可能となりました。

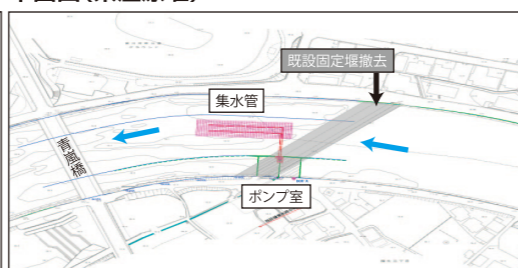


事業の概要(堰の改築)

集水埋渠方式



平面図(茶屋原堰)



茶屋原堰



着手前



完成

中島堰



着手前



完成

環境手帳



災害からの復旧で環境に配慮した事例

平成21年7月梅雨前線豪雨(氾濫面積約76ha、家屋等の被害349戸)、平成22年7月梅雨前線豪雨(氾濫面積約35ha、家屋等の被害58戸(神獄川を除く))と、2年続けて浸水被害が発生しました。これを受け、緊急対策事業を実施しました。

北九州市中心部を流れる都市河川でありながら、豊かな自然環境が残っています。

そのため、固定堰は集水埋渠方式による横断工作物のない形式を採用し、生物の移動の連続性を確保しました。また、工事による水の濁りを減らすために、工事中の対策事例をまとめたポケットブック(環境手帳)を作成し、生物の生息環境に配慮しながら改修を行いました。

事業の概要(周辺整備)

紫川は散策路・階段等の親水施設を整備しました。

今町地区では、毎年、環境保護団体がアユの放流イベントを実施しています。また、周辺住民の散策コースとして利用されています。

長尾地区でも、毎年、環境保護団体がアユの放流イベントを実施しています。イベント会場周辺を土系舗装で整備しました。

今町地区



遊歩道

長尾地区



アユの放流イベント会場(整備前)



アユの放流イベント



アユの放流イベント会場(整備後)